

科目名 小児看護援助論Ⅱ	配当時期 2年次	講義担当者 百田真樹 豊田雛子 船津巴 高木佳寿美	
時間割表記名 小児看護援助論Ⅱ	単位数 1 単位		
	時間数 30時間(15回)		
事前学習内容 川崎病の病態・検査・治療・看護についてレポートにまとめる。			
授業目標 1. 疾病・障害をもつ子どもと家族への看護が理解できる。 2. 現代の小児医療の課題である小児期の事故と外傷について理解できる。 3. 小児看護における看護過程が展開できる。			
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解できる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1	1. 子どもの状況に特徴づけられる看護 1)入院中の子どもと家族の看護 2)外来における子どもと家族の看護 3)在宅療養中の子どもと家族の看護	講義	テキスト②
2	2. 子どもの健康問題と看護 1)治療における意思決定の支援(インフォームドアセント) 2)プレパレーションとは 3)発達段階に即したセルフケアの支援 4)子どもの日常生活にかかわる看護 5)健康問題をもつ小児と家族の看護	講義 演習	テキスト②
3	3. 小児における疾病の経過と看護 1)急性期ある小児と家族の看護 2)周手術期にある小児と家族の看護	講義 演習	テキスト②
4	(1)手術を受ける子どもの反応 (2)手術を受ける家族の反応		
5	4. 慢性期にある小児と家族の看護	講義	テキスト②
6	5. 終末期にある小児と家族の看護	講義	テキスト②
7	6. 障がいのある小児と家族の看護 1)障がいの捉え方	講義	テキスト①
8	2)障がいのある小児と家族の特徴 3)障がいのある小児と家族の社会的支援		
9	【事例展開】川崎病患者の看護(幼児期) 1)小児の看護過程に必要な知識と技術		

10	2)小児看護のアセスメントの視点 (1)健康障害をもつ小児の関連図の構成要素	講義 課題学習	テキスト②
11	3)看護過程の実際 (1)情報収集と整理 (2)関連図による全体像の把握 (3)看護問題の抽出	課題学習 動画視聴	テキスト①②
12			
13			
14	(4)日々の看護をととした情報収集とアセスメント	講義 グループワーク	テキスト①② 資料
15	筆記試験 まとめ	試験(筆記)	
<p>受講上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講義とグループワークで進める。 ○看護過程の展開では、事前課題を各自で取り組みグループワークに臨む。 ○評価は筆記試験でと課題内容で行う。 			<p>評価方法</p> <p>筆記試験 レポート</p>
<p>使用するテキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ①系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論 小児看護学総論 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院 ③リンダ J.カルペニート著 看護診断ハンドブック 第11版 医学書院 ④写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ <p>参考文献</p>			